

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K20998

研究課題名(和文) 配偶者控除が既婚女性の労働供給に与える影響

研究課題名(英文) The Impact of Spousal Exemption on Labor Supply of Married Women

研究代表者

横山 泉 (Yokoyama, Izumi)

一橋大学・国際・公共政策大学院・講師

研究者番号：30712236

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：2004年の配偶者特別控除一部廃止の既婚女性の労働供給に対する分析効果の結果、低所得層における収入増加と中高収入者層の100万円周りへの移動が起こり、皮肉にも、歴史的に存在する、日本の既婚女性の収入分布の100万円前後における「ゆがみ」はより顕著となった。またこの2004年の改正から得た経験をもとに、2018年の配偶者控除の改正に関して予測される賃金分布の変化についても追加的分析を行った。具体的には2004年の時と同様、何か女性の労働供給に対してネガティブなショックが起こった場合、中高所得層が年収分布上で150万円の少し下の部分に収入を非連続的に減らす事象が起こりうる事が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：In this study, I examine how the 2004 tax reform in Japan affected the work-hour distribution of married women. Empirical analyses all confirm that the tax reform increased the work hours among low-income married women. In addition, some medium- to high-income married women greatly reduced their income to just below the conventional income threshold in response to an increase in their husbands' income after the tax reform. This evidence indicates that this behavior of medium- to high-income wives could be due to an enhanced awareness of the conventional income thresholds. It also implies the importance of knowing and understanding the potential impact of the tax reform on those who are not the target of it, as well as the conditions under which the discontinuous income drop among medium- to high income wives is likely to occur.

研究分野：労働経済学・応用計量経済学

キーワード：配偶者控除 配偶者特別控除 女性の労働供給

1. 研究開始当初の背景

日本には、配偶者の所得が増加するに伴い所得控除額が減少する配偶者控除制度が存在する。この配偶者控除制度は、既婚女性の労働意欲を妨げていることが長年指摘されてきた。しかしながら配偶者控除の縮小見送りの議論がなされる現在でも、その制度自体や配偶者控除の縮小が女性の労働供給に与える影響に関して、十分なエビデンスが得られているとは言えない状況にある。例えば、2004年に配偶者の年収が103万円以下の納税者に対して、配偶者特別控除が廃止となった。しかしながら、その改正から十分な時間が経過した現在でも、税制改正の定量的評価を行った研究は非常に少なく、結果に関してもいまだコンセンサスには至っていない状況にあった。その理由の一つに、同時期に起こった、男性労働者の所得上昇などの税制改正以外の効果と、税制改正の効果を切り離すことが難しいという技術的側面が存在する。その制約を克服し、正確な推定を行うには、配偶者の所得情報など、女性の労働供給に影響を与える変数を豊富に含む複数年のデータを入手した上で、計量経済学的手法としても厳密に税制改正の効果だけが抽出されるよう熟慮する必要があった。加えて、「配偶者控除の縮小の効果は、各所得層の間で異質性を持つ」という事実が事をより複雑にする。この、所得層間の効果の異質性と、詳細な要因分解を同時に考慮した計量経済学的手法が近年まで未開発であったことも、この分野の定量評価を遅らせる大きな一因となっていた。しかしながら、2010年に提唱された Firpo, Fortin, and Lemieux の最新の分解分析（以下、FFL 分解）により、分布全体に対するさらに細かい分解が可能となった。この手法を日本の配偶者控除の文脈に応用した研究は Yokoyama (2013)以外いまだ存在しないが、日本の配偶者控除制度の性質を考慮すると、この方法なくして厳密な定量評価は不可能であると言える。そこで、本研究では FFL 分解を用いて、所得層間における効果の異質性を明確に検証し、平均に着目するのではなく、税制改正が労働時間と所得分布全体にどのように影響を及ぼすかに関して理論的・実証的分析を行う必要があった。

2. 研究の目的

日本の配偶者控除制度には、配偶者の所得増加に伴い、所得控除が減額されるという特徴がある。この制度的特徴は既婚女性の労働供給を抑制する方向に作用するため、配偶者控除の縮小により労働供給が拡大することが予測される。配偶者控除縮小の実

施の見送りが決定した現在、今一度エビデンスに基づいた配偶者控除の影響の定量的評価を行うことが重要である。本研究では、配偶者控除縮小が既婚女性の労働供給に与える影響を理論的・実証的に分析し、エビデンスに基づいた政策提言につなげることを目的とする。

3. 研究の方法

慶應義塾家計パネル調査を用いた実証研究を行った。応用計量経済学の最新の分解分析の手法を用い、配偶者控除の縮小が労働時間と賃金分布全体に与える影響を定量化する。あわせて、行動経済学的なアプローチも同時に行い、両方の手法により説得力のある結果を導いた。具体的には、FFL 分解手法において、各 quantile における被説明変数(ここでは、労働時間と賃金)の総変化を、係数変化による効果 (Structure Effect) と、属性変化による効果 (Composition Effect) に2分し、さらに、それぞれの効果を、ひとつひとつの変数レベルまで分解する。それにより、労働者の各属性とその係数がどのように変化し、それらが被説明変数の全体の分布にどのように影響したか(有意にプラスの効果を与えたのかなど)を、数値化した。この分解手法を使用し、低所得層における分布変化の決定要因が税制改正であることを確認したうえで、中～高所得の既婚女性の間で潜在的な行動変容が見られるのかを検証する。つまり、予算制約線上の100万円周りにおける屈曲点が以前より目立つ形となったために、夫の所得増加などの、既婚女性の労働供給にマイナスの影響を与えかねない要因変化を受けて、中高所得層の既婚女性が賃金分布の100万円周りの塊に集まるといような行動変容が起こったのかどうかを検証した。

4. 研究成果

2004年の配偶者特別控除一部廃止の既婚女性の労働供給に対する効果を分析した。その結果、2004年の税制改正は低収入の既婚女性の労働時間と収入を増加させた一方で、税制改正に直接的な影響を受けていない年収103万円以上の既婚女性に関しては、同時期に起こった夫の所得増加傾向を受け、税制改正によって顕著になった予算制約線上の100万円周りの屈曲点まで年収を低下させるという非連続な収入下落が見受けられた。結果として、女性の労働供給を増やす目的で導入された税制改正であったが、低所得層における収入増加と中高収入者層の100万円周りへの移動が起こり、皮肉にも、歴史的に存在する、日本の既婚女性の収入分布の100万円前後における「ゆがみ」はより顕著となった。この結果は、"Women's Labor Supply and Taxation: Analysis of the Current Situation Using Data" という論文として2018年3月に Public

Policy Review から出版した。またこの 2004 年の改正から得た経験をもとに、2018 年の配偶者控除の改正に関して予測される賃金分布の変化についても追加的分析を行った。具体的には 2004 年の時と同様、何か女性の労働供給に対してネガティブなショックが起こった場合、中高所得層が年収分布上で 150 万円の少し下の部分に収入を非連続的に減らす事象が起こりうる事が明らかとなった。この結果は "How the Tax Reform on the Special Exemption for Spouse Affected the Work-Hour Distribution" という論文として Journal of The Japanese and International Economies から近日出版される。

[文献リスト]

Izumi Yokoyama and Naomi Kodama, "Women's labor supply and taxation: —Analysis of the current situation using data—," 2018, *Public Policy Review*, Vol.14, No.2, pp.267-300, 査読無.

Izumi Yokoyama, "How the Tax Reform on the Special Exemption for Spouse Affected the Work-Hour Distribution," *Journal of the Japanese and International Economies*, forthcoming, 査読有.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 19 件)

- ① Izumi Yokoyama, "How the Tax Reform on the Special Exemption for Spouse Affected the Work-Hour Distribution," *Journal of the Japanese and International Economies*, forthcoming, 査読有. DOI: 10.1016/j.jjie.2018.04.002
- ② Izumi Yokoyama and Naomi Kodama, "Why the Earnings of the Middle Class Declined: Evidence from Japan", *Applied Economics Letters*, forthcoming, 査読有. DOI: 10.1080/13504851.2018.1441505
- ③ Naomi Kodama and Izumi Yokoyama, "The labor market effects of increases in social insurance premiums: Evidence from Japan," *Oxford Bulletin of Economics and Statistics*, forthcoming, 査読有. DOI: 10.1111/obes.12226
- ④ Izumi Yokoyama, Kazuhito Higa and Daiji Kawaguchi, "Adjustments of regular and non-regular workers to exogenous shocks: Evidence from exchange rate fluctuation" Bank of Japan Working Paper Series, No.18-E-2, 査読無.
- ⑤ Izumi Yokoyama and Takuya Obara, "Optimal combination of wage cuts and layoffs —The unexpected side effect of a performance-based payment system—," 2017, *IZA Journal of Labor Policy*, 6:14, 査読有. DOI: 10.1186/s40173-017-0092-2
- ⑥ 児玉直美, 横山泉, 2017, 「景気変動と賃金格差」, 『経済分析』, 内閣府経済社会総合研究所, Vol.195, 34-61 頁, 査読有.
- ⑦ Daiji Kawaguchi, Hisahito Naito, and Izumi Yokoyama, "Assessing the effectiveness of standard-hours reduction: Regression discontinuity evidence from Japan," 2017, *Journal of the Japanese and International Economies*, 43, pp. 59-76, 査読有. DOI: 10.1016/j.jjie.2016.12.002
- ⑧ 森悠子, 横山泉, 2017, 「雇用保険制度と失業行動」『平成 29 年就業構造基本調査を迎えて』, 日本統計協会の月刊誌『統計』, 7 月号, 26-33 頁, 査読無.
- ⑨ Naomi Kodama and Izumi Yokoyama, "Labor market impact of labor cost increase without productivity gain: A natural experiment from the 2003 social insurance premium reform in Japan," 2017, *RIETI Discussion Paper Series 17-E-093*, Research Institute of Economy, Trade and Industry (*Published in Oxford Bulletin of Economics and Statistics*, forthcoming), 査読無.
- ⑩ Naomi Kodama, Izumi Yokoyama, and Yoshio Higuchi, "Changes in wage inequality and the structure of wage determination in Japan," 11 November 2016. *VoxEU*, 査読無.
- ⑪ 横山泉, 児玉直美, 2016, 『女性の労働と税—データを用いた現状分析—』 「フィナンシャル・レビュー：特集税制改革 エビデンスに基づいた政策提言」財務省財務総合政策研究所平成 28 年第 2 号(通巻 127 号), 第 8 章, 49-76 頁, 査読無.
- ⑫ Izumi Yokoyama, Naomi Kodama, and Yoshio Higuchi, "What happened to wage inequality in Japan during the last 25 years? Evidence from the FFL

decomposition method”, 2016, *RIETI Discussion Paper Series* 16-E-081, Research Institute of Economy, Trade and Industry, 査読無.

- ⑬ 横山泉, 2015, 「似て非なるもの <企業内マネジメントの局面> 年功賃金の解釈: 人的資本/後払い賃金」『日本労働研究雑誌』4月号, No.657, 34-35頁, 査読無.
- ⑭ Izumi Yokoyama, Kazuhito Higa and Daiji Kawaguchi, “The effect of exchange rate fluctuations on employment—Empirical analysis using firm-level panel data—”, 2015, *RIETI Discussion Paper Series* 15-E-139, Research Institute of Economy, Trade and Industry, 査読無.
- ⑮ Izumi Yokoyama and Takuya Obara, “Optimal combination of wage cuts and layoffs: The unexpected side effect of a performance-based payment system,” 2015, Discussion papers; No. 2015-07, Graduate School of Economics, Hitotsubashi University (*Published in IZA Journal of Labor Policy, forthcoming*), 査読無.

[学会発表] (計10件)

- ① Izumi Yokoyama, Kansai Labor Workshop, Tokyo, Japan, 5/25/2018, "Effects of state-sponsored human capital investment on the selection of training type" (with Naomi Kodama and Yoshio Higuchi)
- ② Izumi Yokoyama, Tokyo Labor Economics Workshop, Tokyo, Japan, 5/11/2018, “Inequality through Wage Response to the Business Cycle—Evidence from the FFL Decomposition Method—(with Naomi Kodama, and Yoshio Higuchi)
- ③ Izumi Yokoyama, GRIPS Seminar Series in Economics, Tokyo, Japan, 11/2/2016, “What Happened to Wage Inequality in Japan during the Last 25 Years?—Evidence from the FFL decomposition method—,” (with Naomi Kodama and Yoshio Higuchi) 政策研究大学院大学 (GRIPS)
- ④ Izumi Yokoyama, 日本経済学会 2016年度春季大会, Nagoya, Japan,

6/19/2016, “Does Drinking Make You More Productive? A Natural Experiment from Genetic Variation?” (with Daiji Kawaguchi and Jungmin Lee)

- ⑤ Izumi Yokoyama, 文理融合研究会, Tokyo, Japan, 10/04/2015, “Estimating the causal impact of alcohol consumption on earnings using genotype as the instrumental variable” (with Daiji Kawaguchi and Jungmin Lee)
- ⑥ Izumi Yokoyama, 日本経済学会 2015年度秋季大会, Tokyo, Japan, 10/11/2015, “Optimal Combination of Wage Cuts and Layoffs: The Unexpected Side Effect of a Performance-based Payment System” (with Takuya Obara)
- ⑦ Izumi Yokoyama, 日本経済学会 2015年度秋季大会, Tokyo, Japan, 10/10/2015, “Unexpected negative impacts of the 2003 social insurance premium reform” (with Naomi Kodama)
- ⑧ Izumi Yokoyama, Hitotsubashi Summer Institute on Labor Economics, Tokyo, Japan, 8/1/2015, “Estimating the causal Impact of Alcohol Consumption on Earnings using Genotype as the Instrumental Variable” (with Daiji Kawaguchi and Jungmin Lee)
- ⑨ Izumi Yokoyama, Tokyo Labor Economics Workshop, Tokyo, Japan, 6/5/2015, “How the 2003 Social Insurance Premium Reform Affected Firm Behavior” (with Naomi Kodama)
- ⑩ Izumi Yokoyama, 日本経済学会 2015年度春季大会, Nigata, Japan, 5/23/2015, “The Impact of Tax Reform in Japan on the Work-Hour and Income Distributions of Married Women”

[図書] (計1件)

- ① 「第7章 働く力を高めるために—足りない何かを補う」『30代の働く地図』(著者: 玄田有史, 佐藤博樹, 村上陽子, 中村天江, 大嶋寧子, 川上淳之, 桑村裕美子, 佐野晋平, 高橋陽子, 田中聡一郎, 勇上和史, 横山泉) 編者: 玄田有史, 監修: 全労済協会, 岩波書店, *forthcoming*.

[その他]

「一橋大学・研究者情報」

https://hri.ad.hit-u.ac.jp/html/100000153_profile_ja.html

「個人のホームページ」

<https://sites.google.com/r.hit-u.ac.jp/izumi-yokoyama/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横山 泉 (YOKOYAMA, Izumi)

一橋大学・国際・公共政策大学院・講師

研究者番号：30712236